

# 病院<sup>+</sup>で看取りをされる ご家族の方へ



ご説明を受けた方

---

説明をした人

---

ご説明した日

年

月

日

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会

とよひら・りんく

[www.toyohiralink.jp](http://www.toyohiralink.jp)

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会

とよひら・りんく

## はじめに

病状や体力の変化から少しずつお別れが近づいていることが、ご家族の皆様にもおわかりいただけるかと思えます。これからの症状の変化やどう対処したらいいのかと、心配や不安を感じておられると思えます。平穏で落ち着いたお別れが出来ますよう、職員一同、心の準備のお手伝いをさせていただきます。わからないことや心配なこと、相談したいことがあれば、その都度、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーに声をかけてください。

## 目次

食事のこと	3
睡眠のこと	4
排泄のこと	5
言動・行動のこと	6
体温のこと	7
呼吸のこと	8
点滴のこと	9
付き添いのこと	10
病院で症状を 和らげるためにできること	11
唾液や痰などのケアについて	12
鎮静剤・睡眠剤について	12
お亡くなりになられた時の 対応について	13
最後に	14

## 食事のこと

食事や水分を取る量が減り、食べられなくなってきます。  
飲み込みにくくなったり、むせる事が多くなります。

本人の食べたいもの、  
ご家族の食べさせてあげたいものがあれば、ご相談ください。  
嚥下(えんげ:「飲み込み」)の状況を見て助言をさせていただきます。  
無理に食べさせることによって、  
窒息してしまうこともありますので注意が必要です。



## 睡眠のこと

だんだんと眠っているように見える時間が長くなります。  
その後、声をかけても目を覚ますことが少なくなります。

最期まで耳は聞こえていると言われています。  
返事がなくても、そばにいて声をかけたり、  
好きな音楽をかけてあげることで、  
ご本人も安心されると思います。



## 排泄のこと

尿の量が少なくなってきました。  
手足などにむくみが出る方もいます。  
指輪がきつくなり外れなくなることがあります。  
排尿すること自体が大変であれば、  
オムツで対応する場合があります。  
病状が進行すると排便も難しくなります。  
必要な時に下剤や座薬を使って便を出しやすくする  
処置をする場合があります。

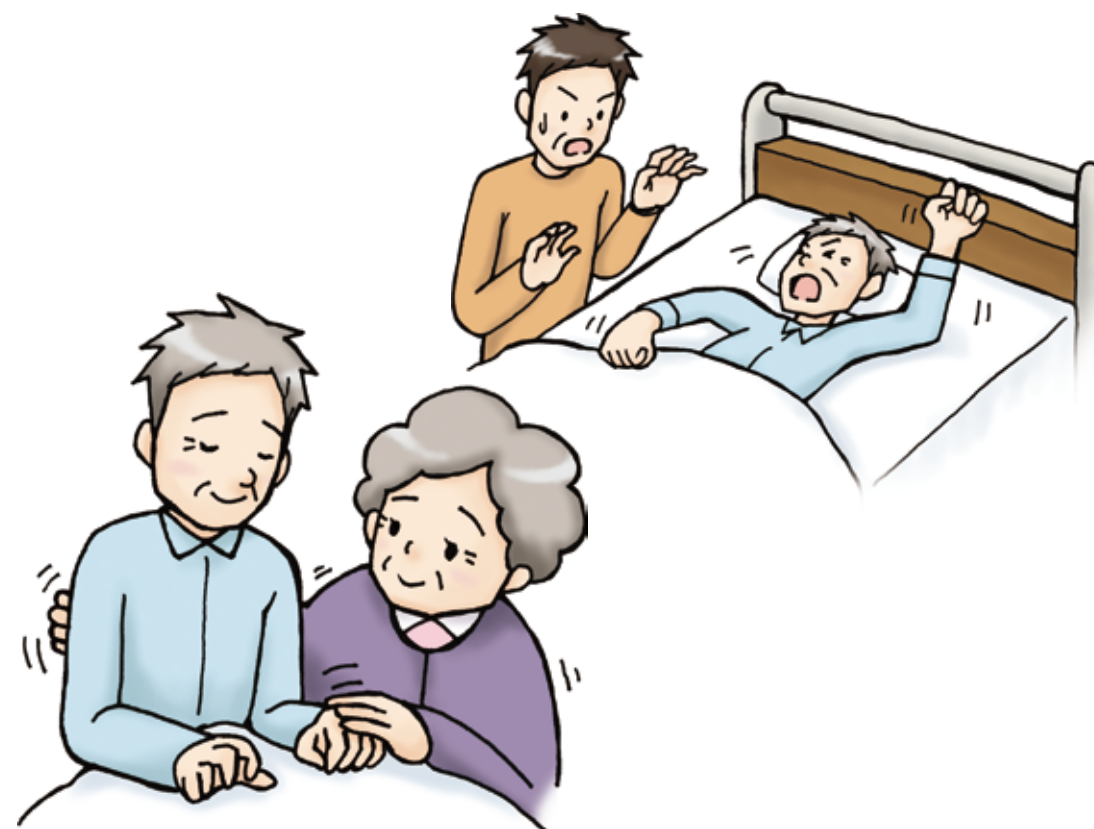


## 言動・行動のこと

夢と現実、今と過去を  
行ったり来たりしているような話をすることがあります。  
つじつまがあわないことを言ったり、  
手足を動かすなど落ち着きがなくなることもあります。  
場合によってはベッド上での安静が保てなかったり、  
点滴のための針を自分で抜く行為をしてしまうこともあります。



危険なことでなければ、見守ってあげてください。  
その時の症状によって本人の負担を考えた上で、  
適切な対応をさせていただきます。  
ご本人が安心するように、  
ご家族が背中や手足をさするの也很好いでしょう。





## 体温のこと

手足の先が冷たく青ざめ、脈が弱くなります。  
血圧が下がり、循環が悪くなります。



手足をやさしくマッサージすることは支障ありません。



## 呼吸のこと

**のどもとでゴロゴロという音がすることがあります。**

眠りが深くなることで唾液がうまく飲み込めなくなり、  
のどに唾液がたまってゴロゴロ音がする状態になります。  
深く眠っている場合は、私たちが思うほど苦しさは感じていません。  
表情などから辛いかどうかを判断できます。

.....  
**呼吸のリズムが不規則になったり、  
肩や顎を使って呼吸をするようになります。**

元気な人は呼吸をする事に意識をすることはありませんが、  
体力が低下してくると呼吸をすること自体にもエネルギーを要し、  
消耗してくるため、努力様の呼吸となります。  
つまり呼吸をすることにも体力を使っている状態です。  
残された時間は少なくなってきました。



## 点滴のこと

- 十分な量を口から食べたり飲んだり出来ないとき、点滴で水分とカロリーを補充することができます。
- 血圧を上げるための点滴や、痛みなどの苦痛をとるための点滴もあります。ご家族の意向や病状に合わせて使用することがあります。
- 臨終に近い場面では、腎機能が低下していたり、低栄養のため血管内に水分をたくわえる力が弱くなるためにむくみ(浮腫)が出る場合があります。点滴を減らすことでむくみなどの辛い症状が減る場合があります。
- 生命活動には栄養と水分が必要ですが、かえって病状が悪化してしまう場合がありますので、状態に応じて調整することがあります。



## 付き添いのこと

- ご本人のことを考えると、ご家族が付き添われることは、この上ない心の支えです。
- ただし、付き添うことによりご家族自身の精神的、肉体的な疲労が蓄積していくこともあります。
- ご家族内で話し合っ、ご家族の皆様を休めることも必要です。



## 病院で症状を和らげるためにできること

- 体の姿勢を工夫します。床ずれ(褥瘡:じょくそう)ができないよう時間ごとに身体の向きを変えたり、のどに唾液や痰などがたまらないよう、呼吸が楽になるように姿勢を整えます。
- 口の中のケアをさせていただきます。  
一般的な歯ブラシだけでなく、口のケア用のスポンジなどに変えたり、必要にあわせて吸引をしながら行います。  
口の中が乾燥して汚れが取れにくくなったり、血が出やすくなることを防ぐため、塗り薬をつけることもあります。
- 病状に合わせて、点滴の量を調整することがあります。



## 唾液や痰などのケアについて

唾液や痰が多くなり、呼吸でゴロゴロした音が聞こえることがあります。必要に応じてその分泌物を細い管で吸い取ることがあります。ただ、一時的に分泌物を取り除いても、再び同じ状態になることがあります。吸引することによる苦痛が強いこともありますので、状態に合わせて行います。



## 鎮静剤・睡眠剤について

痛みや苦しみを和らげるために、持続的に鎮静剤・睡眠剤を使うことがあります。これらの薬剤を使うことで、深い眠りが得られますが呼吸が浅くなったり、回数が少なくなることがあります。しかし、そのために寿命が縮まるということはありません。



## お亡くなりになられた時の対応について

- もしご家族がそばにいないときに何かありましたら、ご連絡させていただきますので、いつでも連絡がとれるようにしておいてください。
- 患者様がご家族とお別れした後、身体を拭いて容姿を整えさせていただきます。希望があれば、ご家族も身体を拭くこともできます。その際に着せてあげたい衣服があれば事前に用意をお願いします。
- 容姿を整えさせていただいた後は、ご家族と一緒に霊安室へ移動し、葬儀会社の方を待つことになります。
- 葬儀会社の手配については、ご家族にお願いしています。前もって葬儀会社に相談をしておくこともできます。ほとんどの葬儀会社は深夜も対応してくれるようになっています。



## 最後に

- 皆様がお心残りのないよう、親戚の方や親しい方へはご連絡しておいた方がよろしいでしょう。
- 何か私たちに出来ることがございましたら、遠慮なく声をかけください。ご家族の不安や心配が少しでも軽くなるようお手伝いさせていただきたいと考えております。

